

第1回「兵庫県ツキノワグマ対策連絡会議」 次 第

日時：令和7年9月19日(金) 11:30～12:00
場所：県庁2号館5階庁議室（web併用）

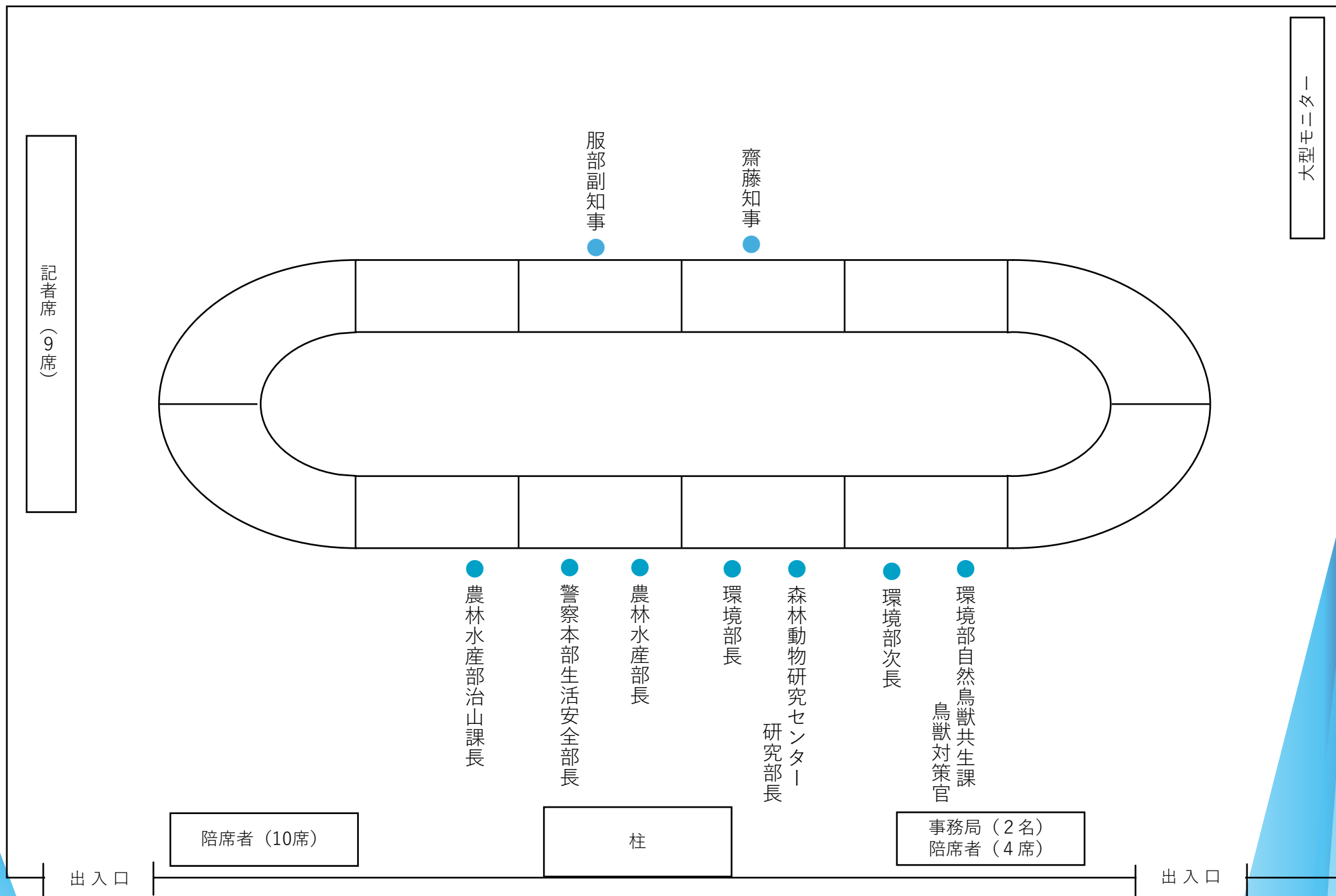
1. ツキノワグマの生息・目撃状況等
2. 堅果類（ドングリ類）豊凶調査結果に基づく出没予測
3. 被害防止対策
4. 知事メッセージ

【出席者】

	所属・職名等	氏名
会長	知事	齋藤 元彦
副会長	副知事	服部 洋平
構成員	農林水産部長	守本 真一
	環境部長	福山 雅章
	森林動物研究センター 研究部長	横山 真弓
	神戸県民センター長	内藤 良介
	阪神南県民センター長	團野 礼子
	阪神北県民局長	小野山 正
	東播磨県民局長	野北 浩三
	北播磨県民局長	成田 徹一
	中播磨県民センター長	井野 健三郎
	西播磨県民局長	城下 隆広
	但馬県民局長	上田 英則

	所属・職名等	氏名
構成員	丹波県民局長	糟谷 浩行
	淡路県民局長	川井 史彦
	兵庫県警察本部 生活安全部長	澤田 義雄
関係課	農林水産部治山課長	福井 康弘
事務局	環境部次長	久野 洋貴
	環境部自然鳥獣共生課 鳥獣対策官	中川 幸二
	環境部自然鳥獣共生課 副課長	祖父江 宗利
	環境部自然鳥獣共生課 被害対策班長	石川 修司

場所：県庁2号館5階 庁議室

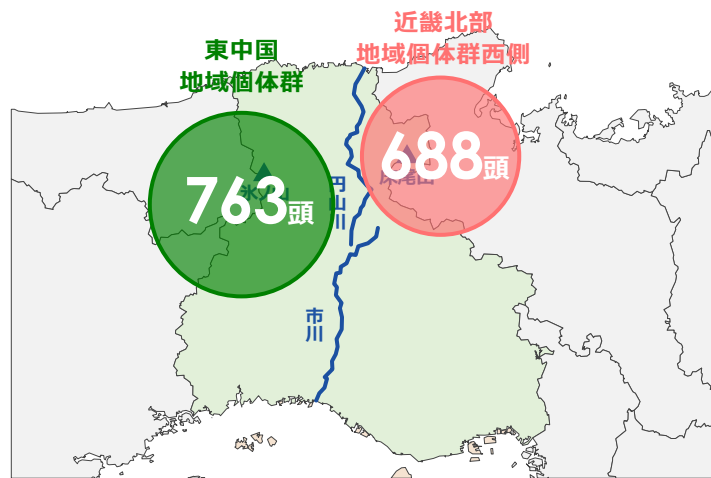


1. ツキノワグマの生息・目撃状況等

本県に属するツキノワグマ地域個体群の生息数は、絶滅のおそれがないレベルの個体数（400頭以上）となる一方、毎年、集落周辺での出没が相次ぎ、住民不安の増加や人身事故の発生が危惧

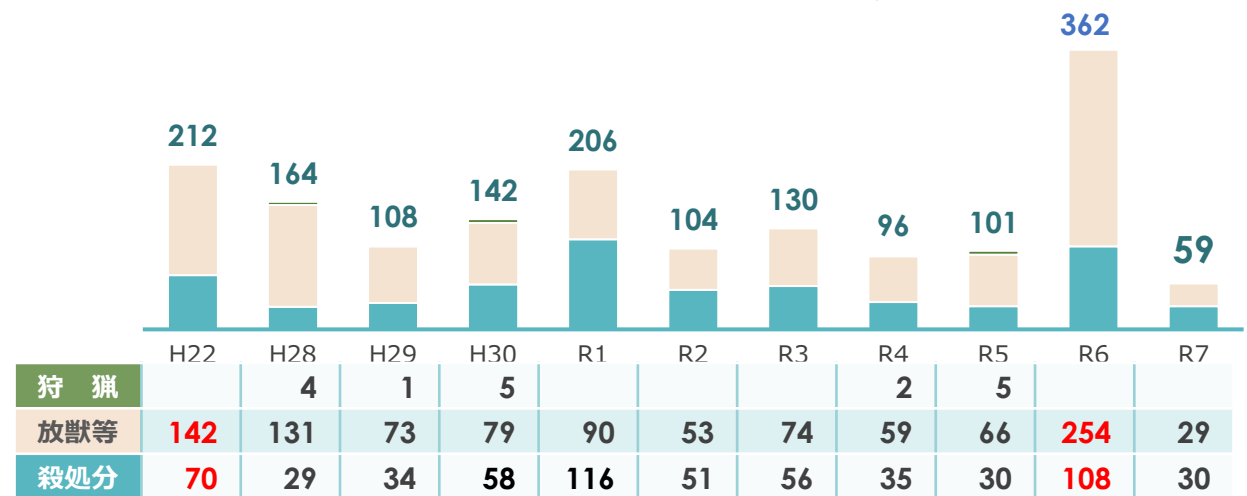
集落へのクマ出没や人身事故の発生を未然に防ぐため、平成29年度から集落内の柿などの誘引物の除去や、集落周辺での有害捕獲の強化、奥山等のクマ生息地での広葉樹林の育成などの取組を推進

地域個体群の分布状況



※ 生息数は推定中央値

ツキノワグマ捕獲数の推移（単位:頭）



※ R7は8月末時点(暫定値)

堅果類(ドングリ類)の豊凶とクマの目撃・痕跡及び人身被害件数

- クマの目撃・痕跡件数は、コナラやブナ等の堅果類(ドングリ類)の豊凶により増減している

年 度	H22	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目撃・痕跡件数 ※	1,623	978	490	638	787	520	589	509	524	1,128	326
人身被害件数	4	3	2	0	2	2	2	0	0	2	1
堅果類の豊凶	大凶	凶	豊	並	凶	凶	並	並	凶	大凶	豊

※ R7は8月末時点(暫定値)

生活史

クマの行動が活発になるのは、初夏の交尾期と秋の飽食期です。交尾期は特にオスが行動圏を広げるため、通常クマが出没しないような地域にまで移動することがあります。

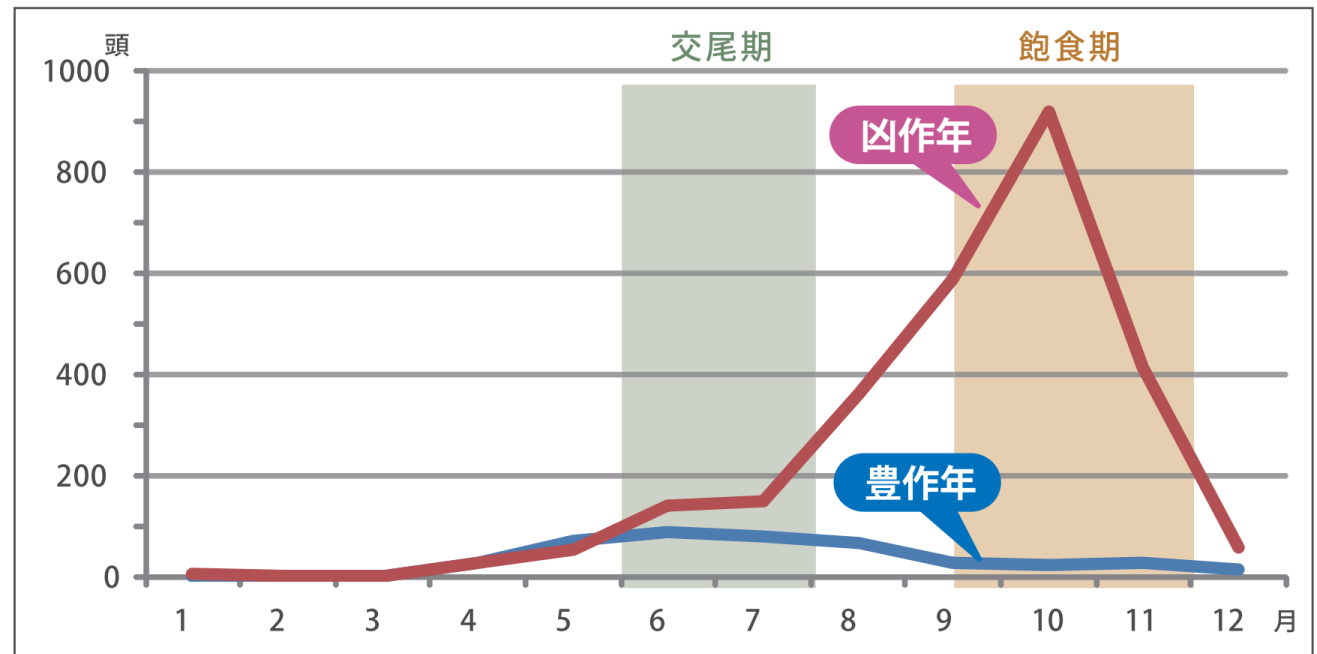
飽食期は、冬眠に備え食欲が増すため、食べ物が大量に得られる場所に長時間滞在し食べ続けます。

生活史	冬眠			交尾期					飽食期		冬眠	
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
オス	メスを求めて 行動圏を広げる											
妊娠メス	↑ 出産 (1～2 頭) 授乳			子連れ期			出産した メスは発情しない			子どもと同一の 冬眠穴に入る		
子連れメス	子連れ期					子別れと発情					↑ 妊娠	

山の実りと出没

クマが好むドングリや果実が凶作の年には、人里のカキや生ゴミなどに誘引され、夏以降に大量に出没することがあります。

豊作の年には、人里での目撃はほとんどなくなります。ただし、初夏は交尾のため、行動範囲が広がり目撃が増える傾向にあります。

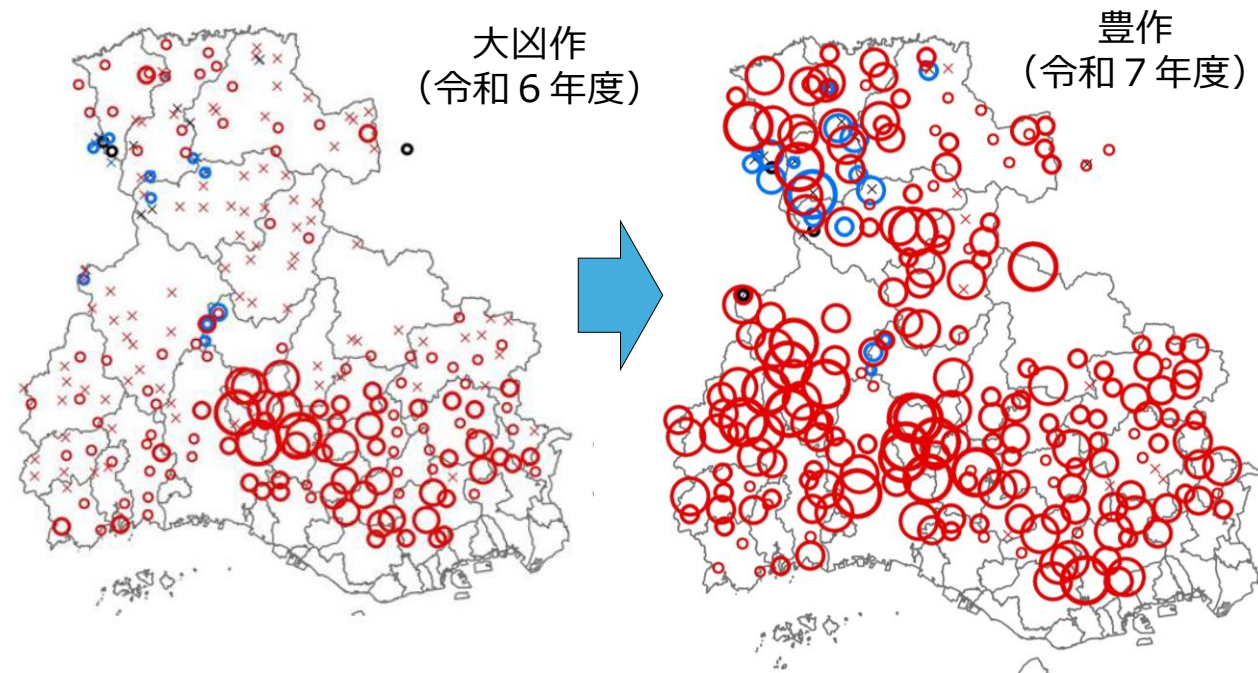


月ごとのクマの目撃件数 (2005 年～ 2010 年の合計)

以前からクマの出没の多かった但馬地域では、下記の取組を進めることで、クマの出没防止対策を実施している

	有害個体の捕獲	不要果樹の伐採	潜み場の除去
取組状況			
効果	出没防止対策を行ったにもかかわらず、集落に出没する個体の有害捕獲によって、人身事故、精神被害を防止する。	クマを集落に呼び寄せるカキなどの不要果樹を伐採することで、クマの集落への出没を防止する。	クマの潜み場となる山裾の繁みを刈り払って、バッファーゾーンを整備することで、人とクマの棲み分けを図る。

2. 堅果類(ドングリ類)豊凶調査 結果に基づく出沒予測



【凡例（豊凶指数）】

コナラ	ミズナラ	ブナ	豊凶指数	説明
×	×	×	0	ほぼ全く結実がない
○	○	○	0.1-0.6	ほとんどの木で、少量以下の結実
○	○	○	0.7-1.2	多くの木で、並みの結実
○	○	○	1.3-1.8	一部の木で大量の結実
○	○	○	1.9-2.4	半数以上の木で大量の結実
○	○	○	2.5-3.0	ほぼ全ての木で大量の結実

【過去5ケ年の豊凶判定】

	樹種	R3	R4	R5	R6	R7
豊凶区分	コナラ	凶	並上	並上	凶	大豊
	ミズナラ	凶	並上	大凶	大凶	豊
	ブナ	豊	大凶	大凶	大凶	大凶
	3種総合	並上	並上	並下	大凶	豊

【豊凶区分：大豊作・豊作・並作上・並作下・凶作・大凶作】

【調査方法と結果】

- 観測地点数：252地点（コナラ：218地点（県全域の低標高帯）、ミズナラ：19地点、ブナ：15地点（主に県北部の高標高帯））
- 調査期間：令和7年8月28日～9月8日
- 調査方法：各観測地点で調査木10本を設定し、各調査木の豊凶度を4段階(0,1,2,3)で判定し、その平均値から豊凶指数を決定。
- 調査結果：全県的にドングリ類は実りが多くなる見込み

＜出沒予測＞大凶作だった昨年度に比べ、ツキノワグマの出沒は少なくなる可能性が高い

3. 被害防止対策

1 クマの目撃・痕跡件数

令和7年度の6～8月の累計は、**過去5年平均を下回る**

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R7	37	119	53	72	45								326
R6※	18	72	141	107	138	167	285	148	42	4	1	5	1,128
過去5年平均	17	49	73	72	72	66	146	118	30	3	1	4	654

※令和6年度はクマのイサとなる**ドングリ類が凶作のため、クマの目撃・痕跡件数が大きく増加**

2 クマ出没に対する備え

(1)注意喚起：5月(交尾期前)、9月(飽食期前)

市町長を通じて自治会・住民等に広く周知、県HP・SNSによる発信

(2)研修会の開催：2回(参加者80人、7月29日(光都)・8月4日(朝来))

市町、警察職員を対象とした出没対応、机上訓練

(3)ドングリ類豊凶調査の公表：9月11日

調査結果(豊作)から出没予測を行い、県HP等で公表

3 ツキノワグマ管理総合対策事業

(1)出没防止対策及び体制構築への支援

①緊急銃猟を含めた市町へのツキノワグマの出没防止対策に必要な資材(防護盾、クマ撃退スプレー等)の購入支援

②専門職員がいない市町への出没対応マニュアル作成等の体制整備指導

(2)有害捕獲への支援

①ツキノワグマの捕獲用わなの導入支援

②市町が有害捕獲したツキノワグマの麻酔による不動化及び処分

(3)クマ管理人材の育成

出没対策に取り組む県・市町職員、捕獲技術者育成のための研修会の開催



クマ出没研修(8月4日)



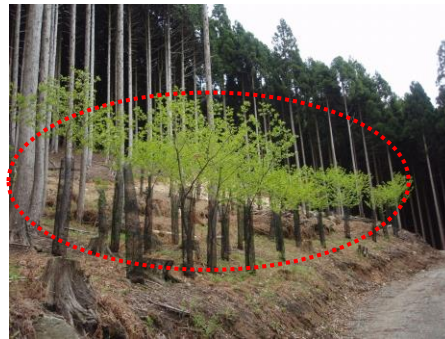
ドングリ(コナラ)の結実状況

区 分	役 割
県庁 （自然鳥獣共生課）	・ 有害捕獲方針を含むツキノワグマ管理計画の策定
県民局・センター （農林（水産）振興事務所）	・ 鳥獣保護管理法第9条に基づく有害捕獲許可 ・ 安全かつ適正な有害捕獲の指導
森林動物研究センター	・ 有害捕獲個体の麻酔による不動化・処分 （モニタリング含む）
市町	・ クマ被害現場の確認 ・ 地域住民等への注意喚起 ・ 県民局への有害鳥獣捕獲許可申請 ・ 有害捕獲従事者（猟友会等）による捕獲
警察署	・ 住民の安全確保措置

■県民緑税を活用した「災害に強い森づくり」での対策

➤ 生息環境の保全・再生【生息地管理】

奥山で手入れ不足となっている高齢のスギ・ヒノキ人工林を伐採して野生動物のエサが実る広葉樹を植栽し、多様な樹種や林齢で構成される**針広混交林**へ**誘導**することで、野生動物の生息環境の保全・再生を図る



植栽した広葉樹が順調に生育



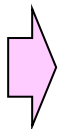
<取組の実施場所（イメージ）>

➤ 人と野生動物の棲み分け【被害管理】

集落や農地に近い山裾を帯状に伐採して**バッファゾーン**を整備することで、人と野生動物の棲み分けを図る



鬱蒼と草木が茂った山裾
(整備前)



見通しが良くなり動物の潜み場が解消
(整備後)

○災害に強い森づくりの事業内容

区分	内容
1 針葉樹林と広葉樹林の混交整備	
針広混交林への誘導	スギ・ヒノキ林の伐採、広葉樹の植栽、作業道の設置 等
2 野生動物共生林整備	
バッファゾーン整備	山裾の伐採、管理用道路の設置 等

4. 知事メッセージ

クマ被害の防ぎ方

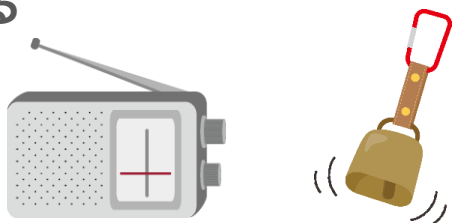
(出会わない！呼び寄せない！)

●クマは学習能力の高い動物であるため、出没直後の対応が重要です

ばったり
出会わない
ために



- 山林に行くときは、音の出るもの（ラジオや鈴）を携帯する



- 夕方から朝までの外出は、人里でも注意を必要する

日が昇ろうとする時間帯や
日が暮れようとする時間帯は、
行動が活発化します！

集落に
呼び寄せない
ために



- 果樹や農地は電気柵等で防護し、不要な果樹は収穫や伐採する
- 生ゴミは野外に捨てず、食べ物も屋内に収納する
- クマが身を隠せる山すその藪や樹木は刈り払いする



目撃や
痕跡を
発見したら



- 集落やその周辺でクマを目撃したり、糞や足跡などの痕跡を発見した場合は、速やかに最寄りの役場窓口に連絡する

